

修 報

<第13号>

論語素読会会報



題字 田久孝翁

学校法人昌平黉
儒学文化研究所

東日本国際大学
いわき短期大学

子曰、

学而時習之、不亦説乎。

(子曰く、学びて時に之を習う、

また説ばしからずや)

学而第一 より



——『修報』という題名は、「学びて時に之を習う」という孔子のことばをもとに、学び修めることを求めつづけていくために、田久孝翁によって名付けられた——

目次

修報によせて	1
心に残った論語の章句	2
論語の中の好きな章句（一言感想文）	8
論語素読教室 一般受講生	
心に響く言葉を子や孫に	20
孔子と孝道	21

六月五日、『修報』の巻頭言を書き続けて下さいました本学の田久孝翁理事長が他界されました。「論語の素読教室」と共に会報誌『修報』の産みの親でもある理事長の死を悼みますと共に、短大時より二十年近く続いてまいりました土曜日の「論語の素読教室」と、『修報』の発行とがこれからも続いていきますよう研究員一同努力していきたいと思っております。

そして学生及び一般受講生の皆さんが、『論語』を通して思ったこと、感じたことを素直に表現出来る場として、又それらを通して生活を振り返り、生きる上での糧となりますようにと願っております。

儒学文化研究所副所長

谷 口 典 子

心に残った 論語の章句

加藤 祐梨江

私は大学で初めて『論語』にふれ、孔子の一生や孔子の残した数々の言葉を知り、孔子は立派な人物だと感じました。二千四百年を過ぎてもなお伝えられていることも、孔子の偉大さを物語っていると思います。

私は授業を受けるにあたって『論語』の存在を知らず知識もなく、始めは興味がありませんでした。しかし論語を学んでいくにつれ、一つ一つの論語の持つ意味や奥深さを知り、論語を学ぶ面白さを発見しました。

「論語を学ぶ」の授業の中で一番強く心に残っている言葉は、「修身齊家治國平天下」です。授業の中でもよく出てくる言葉で

もあり、頌徳歌である「孔子は生きている」の歌詞にも含まれているため、耳に焼きついて離れません。「修身齊家治國平天下」とは、「身を修め、家をととのえ、国を治め、天下を平らかにする」という意味です。つまり、個人個人が勉強や人との交わりの中で立派な人格を形成することが、幸せな家庭を築くことにつながり、そしてそれは社会を平和にしていくなかで基盤だということです。この言葉から、大きな社会を支える基礎は私たち個人だということとを再認識させられました。

孔子の言う「人格の形成」は、私にとって難しいような、大きなことのように感じます。しかし勉強や本から学んで知識を深めたり、様々な活動を通して得る経験を、この大学四年間のうちに出来るだけ蓄えようと思います。学生の今だからこそ考えたり挑戦できることもたくさんあるので、真っ直ぐに精一杯打ち込もうと思います。このような人格形成の過程では、自分自身を高めたり、自信をつけたり、心を豊かにすると思うので、まだまだ足りない自分を磨いていこうと思います。

このようなことを気づかせてくれた『論語』は、私の一生の財産です。



佐藤詩織

「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」これは、私が『論語』の中で一番、心に残っている章句である。この章句の意味は「自分がして欲しくないことは、人にもやらない。人の身になって思いやりをする」ということである。幼い頃、私は、母に「自分が嫌いだと思うことは、人にやってはならない。」とよく言われていた記憶がある。誰もが一度は耳にしたことがある言葉ではないだろうか。この言葉の歴史をたどってみると、今から二千五百年近く前のことになる。中国の戦国時代に生まれた孔子が弟子たちへ伝えたと言われる言葉であり、孔子の弟子たちによって編纂された『論語』の中に出てくるものである。血で血を洗うような戦いの世界を、人間らしく平和な世界にしていいため、孔子は儒学を大成していったと考えられる。孔子は、誰もが納得できるような言葉を残している。それは、実際、行動に移すことが簡単ではなく、思いやりの心を持っていない人間がたくさんいたからだ。私が、心に残っているこの章句も、自分が気づいていないところで傷つけてしまっている人がいるかもしれない、ということに気づかせてくれ、思いやりの心を持たせるきっかけとなってくれる。言葉では理解していても、行動に移すことは大変だ。けれど、行

動に移さなければ、この言葉をしっかり理解したことにはならない。なので、私はこの言葉をしっかりと胸においてこれからの生活に生かしていきたいと思う。そうすれば、必ず、平和な世界になり、一日一日を大切に人間らしく過ごしていけるのだと思う。

古藤 茉由子

私は、大学に入るまで『論語』について何も知りませんでした。しかし授業で『論語』に触れていくうちに論語に対する考えが変わり、少しずつですが関心が出てきました。

たくさん驚いたものはありますが、中でも関心があったことは「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」、自分がして欲しくないことは、人にもやらない。人の身になって思いやりをする。という意味のことばですが、これは人間にとってとても大切なことだと思います。たくさんの方が幼稚園や小学校といった幼いころから教えてもらっていることだと思いますが、なかなかできないことのひとつだと思います。しかし、そういった場合でも、過ちては則ち改むるに憚ることなかれ」、過ちに気づいたらあっさりとあやまりなさい。という『論語』の章句にもあるように、悪いことをしてしまった、人を傷つけてしまったと思ったら、自分から

素直に謝ることが大切だと思います。私も今まで、友達や家族といった周りの人たちに傷つくようなことをしたりされたり、言ったり言われたり、たくさんの方がありがとうございました。そのたびに、謝ったり謝られたりしながら過ごしてきました。当時はそのことで傷ついたり反省したり、大変なこともたくさんあったけれど、今はとても良かったことだったと思っています。それによって相手の気持ちと考えられるようになったりと、成長することができてきたと思うからです。人生の中で人を傷つけないで生きていくことはとても難しいことだと思いますが、「自分がして欲しくないことは、人にもやらない。人の身になって思いやりをする。」ということを頭に入れながら生活し、そのうえで、間違ったことをしてしまったと思ったら「謝る」という当たり前のことができる人が今以上に増えていき、心の豊かな人が増えていけば、日本、世界と平和になっていくのではないかと思います。まだまだ『論語』は奥が深いと思いますが、少しずつ学習していけたら良いと思います。



吉田 由香利

私は、『論語』の授業を受け、たくさんのお話を学んだ中で、一番興味を持ち印象に残ったのは、「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」という教えです。この意味は、自分がして欲しくないことは、人にもやらない。そして、人の身になって思いやりをするのです。この言葉は、人としてあたりまえのことかもしれません。私は、高校のときから福祉を学んでいます。福祉とは、幸せや思いやりだと思っています。だから、この言葉は福祉を学ぶ人にとっての基本だと考えます。思いやりがあって、人の気持ちを理解した上で、人を介護できるんだと思います。介護の世界にも、虐待などがあります。これは、あってはならないことだと思っています。これから、福祉を学ぶ立場で、将来は、こういった介護の世界にはいり、幅広い人々と接すると思います。そこで、この言葉を思い出し、思いやりを持ち、人の支えになれたらいいと思います。

『論語』は、奥深く、知れば知るほど興味がわくものだと思います。これからも、論語の授業に集中し、今以上にたくさんのお話を学びたいです。

山野辺 暁子

「学びて時に之を習う亦説ばしからずや」学んで練習するとすっかり自分のものになってくるので、とてもうれしい。という意味だ。なぜこの言葉を選んだかというと、勉強して学んだことは必ず無駄にはならないと思うからだ。資格をとるために私は勉強している。勉強をしないと自分の身につかないし、テストなどでズルをしてカンニングをする人も居ると思う。そういう人は後で困り、バチがあたると思う。

確かに、勉強はめんどくさいと思うときはあるけれど、自分の夢を叶えようと思えば、いやなことでも辛いことも最後まで必ず、乗り越えられると思う。その一生懸命勉強した分、身につけていると思う。資格試験に落ちたとしても、勉強した分、絶対に、無駄にはならないし、諦めないで勉強をし、またチャレンジしたいと思う。そうすれば合格したときに頑張った分の幸せがあると思う。資格に合格したらその勉強をやめるのではなく、新しい情報などを仕入れて勉強していきたい。そうしたらその分、必ず役に立つだろう。大学を卒業し、仕事をしたら、勉強して学んだことを生かし、働きたいと思う。だから、わたしはこの「学びて時に之を習う亦説ばしからずや」と言う言葉が好きである。これから

も『論語』の授業で、いろいろな言葉を覚え、勉強し、好きな言葉、目標を見つけ、自分の励ましの言葉を見つけていきたいなと思った。



佐藤 藍

私が入学してから『論語』を学んできて印象に残っている言葉は「過ちては則ち改むるに憚ることなかれ」です。この言葉の意味は、間違いを犯したと気づいた時は、すぐに改めなければいけません。また、間違いに気づいていながらそれを改めないことこそ、過ちだということです。同じ間違いを二度と繰り返さず、当たり前のことを当たり前にすることが大切になると思います。

私たち人間にとって「過ちて改むる」ことは簡単なようで大変難しいことであり、そのことからこの言葉に重みがあると思います。今まで『論語』という存在を知っていても、内容は全く知りませんでした。授業を通して孔子の言葉は改めて人生の成長にとっても役に立つものだと感じました。私自身も間違ったことをしたと分かってても人前で、それが家族であっても過ちを認めること

は、なかなか出来ません。今、改めて「過ちでは則ち改むるに憚ることなかれ」を肝に銘じて生活していきたいと思いました。

これから卒業後、仕事をしていくうえで、努力の中で最も大切なことは、間違った言動を注意されたり自ら気づいた時は、素直に過ちを認め改めることだと思っています。「ありがとうございます」・「ごめんなさい」の二つの言葉を素直に言えるような人間になりたいです。日常生活を送っていくうえでも、こうした努力を一步一步積み上げていきたいです。もっと人間として成長していきたいように今まで習ってきた『論語』の章句以外の論語も自ら進んで学んでいきたいです。そして私だけではなく多くの人にも論語を学んで欲しいと思います。

佐藤靖子

私は今の大学に入学して初めて儒学の授業を受けました。高校で少し孔子の勉強をしたのですが、ここではもっと深くまで勉強するので、孔子の歴史や章句をたくさん学ぶことが出来ました。『論語』の章句の中で私が一番好きな章句は、「義を見て為ざるは勇なきなり」です。この章句の意味は、正しいことをしなくてはならない時にひっこんでしまうことは卑怯者だ、という意味で

す。この章句を知ったとき、私たちの日常ではあたり前のことなのになかなか出来ないことだなと思いました。正しいことは正しい、間違っていることは間違っているのだと、どんな場面でもはっきり言うことが大切だと思いました。例えば、自分の友達がクラスの人かにいじめられている時、きちんと止めに入ることが出来るでしょうか。相手が大勢だったら止めることが出来ずに、自分は大見しているだけになってしまふことが多いと思います。そこで勇気を出して悪を正すということが大切だ、と孔子は伝えたいのだと思います。

孔子の教えは心がけ次第で誰にでも出来るあたり前のことばかりです。私はこの孔子の教えが大好きだし、現代教育にもものすごく必要な事ではないかな、と思いました。

大橋麻美

『論語』の中で私が目をひいたのは「未だ生を知らず、焉んぞ死を知らん」という言葉です。意味は「生きることがむずかしい。まだ生きることがわからないので、死の意味などとてもわからない」です。

昔から、夜寝る前に「このまま死んでしまったらどうしよう」

と思っていました。

「死んだら、私のこの思考は何処に行くのかな」とも考えました。その逆も考えました。「何故私は生きているの」「私の存在価値って何」などです。やはりわかりません。そのうちに「生きている価値がわからないから死んでしまえ」と考える事も出て来ました。

でも、孔子のこの言葉を聞いて、まだ両方共わからないのは普通の事ではないのかと思う様になりました。確かに生きる事は難しいと思います。まだ生き始めて二十年も経っていないので当たり前なのかもしれません。生きる事や死ぬ事について、本当にわかる様になるのは死ぬ間際なのかと思います。私が何才まで生きるかはわかりません。でも、本当の意味がわかる様に、生きていきたいです。



論語素読教室

毎月 第二、第三、第四土曜日

午後一時～二時半

於・大成殿（大学内）

受講料無料

いつからでもご参加下さい。

（『かな』論語進呈）

電話（代） 三五〇〇〇一（伊藤）

論語の中の

好きな章句

(一言感想文)

「知者は惑わず」

七 島 和 之

(しっかりと知識を身につけていけば決して惑うことはない)
正しい、自分の想っている事を充分身につけ、知識・自信を持っていれば、周りがどんなに違った意見を言ったとしても、信念を強く持てると感じた。人は弱いから、流されてしまうことがあると思うが、自分も正しい知識を培って、周りに流されない強い信念を持ちたい。

「天を怨みず人を尤まず」

渡 部 秀 樹

(運が悪いからといって、天を恨んだり、人のせいにしたりしてはいけない)

私は弓道部なのですが「礼記射技」という弓道のおしえの一節に「当らざるときはすなわち己に勝つものを恨みず」というのがあります。意味はほぼ同じなのですが、最近は少々その言葉に反する行動をとっていたので少し衝撃を受けました。私はこれから天も相手もうらまず、己の技量と心を高めていきたいと思っています。

「天を怨みず人を尤まず」

三 瓶 優 花

私は、日頃悪いことが起こると、運のせいにしてしまうことがよくあります。本当は、運のせいでも何でもないことは自分がよく知っているのですが、何かのせいにした方が気持ちになる

のです。しかし、この言葉を見て、やはりこのままではいけないと思いました。私だけでなく現代の人々は私と同じように、何かのせいにしてしまったり、誰かのせいにしてしまいがちだと思いますが、本当はそうではなく、自分の失敗と間違いをちゃんと認めないといけないのだと思います。

「天を怨みず人を尤まず」

高 橋 一 二 三 三

私も何か悪いことがあると人のせいにしてしまうことがあります、最終的には自分にも悪いところがあったんだと反省したりする。誰かのせいにきめつけるのではなく自分に非がなかったのか考えることが大事だと思う。



「教え有りて類無し」

坂 本 有 希

（始めから、善人悪人の類別はない）

これから私も、いわ短を卒業して保護者となった時に、子ども達一人ひとりに対して、教育の仕方でも善くも悪くもなるということなので、子ども達が善くなっていけるような保育者になれたら……と、これを読んで感じました。また、この意味にあるように、どんなに悪い人でも、産まれた時から、悪人という訳ではないんだなと思いました。教育の大切さを知りました。

「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」

尾 形 美 矩

（自分がしてほしくないことは、人にもやらない。人の身になって思いやりをする。）

高校の時から「自分がしてほしくないことは、人にもやらない。」ということをおぼわっていたので、まさしくその通りだと思っています。

ます。むしろ、「自分がしてほしいことを人にする。」という意味だと思っています。私は、このことを心掛けて日常生活を送っています。思いやりをもつということは、とても大事なことだと思っています。これからも思いやりをもって、生きていきたいと思っています。

「労して怨みず」

根本史弥

(いやなことであっても不服そうな顔をしない)

今まで中学校や高校で必ず一人はクラスの中にトイレそうじなど他人がいやがりそうなことを積極的にやる人がいました。今思うとその人はすごいなと思う。



「仁に志せば悪むこと無きなり」

佐藤郁奈

(人を愛することにつとめれば悪いことはしないでしよう)

世界の人たちがみんな愛をもって接すれば、戦争も殺人もおきないと思います。今の日本で多くみられる、虐待や家族内での殺人などは、家族愛が稀薄になっていることから増加の傾向をたどっているのだと思います。まずは身近な家族愛をもつことから始めるべきだと思います。

「仁に志せば悪むこと無きなり」

菅野 まどか

人を愛すれば悪むことは考えられないと思いました。私が友だちをわかってあげよう、理解してあげようとしたら、友だちも私に親切にしてくれて仲良くなることができました。また、人を愛すれば人も愛してくれて信頼が深まると思いました。なので、私は人を愛して、人からも愛してもらえるような人になりたいと思

いました。

「仁に志せば悪むこと無きなり」

藤井 亜美

現在、世界のあちこちで争いごとが絶えません。憎しみ合い、けなし合い、権力と地位と名誉のため戦争を行っています。戦争からは悲しみと怒りしか生まれません。権力と地位と名誉を守るものがそれほど大事なことでしょうか。守るべきは人とのつながりと平和ではないでしょうか。この世から争いごとを無くすためにはこの憎しみ、怒りといった悪を誰しもが持つ、愛という形で無くしていく必要があると思います。友を思う愛、自然を思う愛、動物を思う愛などさまざまな愛の形が世界の平和となり、幸せな日々が続くと思います。



「逝く者は斯の如きか昼夜をおかず」

長谷部 良介

（川の流れはあのように昼夜ともなく流れてやまない。人の世もいつのまにかすぎさってしまっている。）

私たちの人生は、川の流れのように、時を止めることなく進んでいます。どんなに楽しいことや、うれしかったことがあっても、多くの人の命が消えた悲しみがあっても、それは全て過去となり、私たちは生きていきます。なので僕は、過ぎゆく人生の一瞬一瞬を大切に悔いのないよう生きていこうと、あらためて思いました。

「君子は器ならず」

周 艶

（器はひととおりのものにはしか使えませんが、教養のある人は、いろいろなことに役立ちます。）

器物はそれぞれ一つの用に適するだけだけれども、君子は一芸にすぐれるばかりでなく、どんな用にも融通が利きます。

人間でも、ひとつのことができると思慢します。でもそれはすぐれた人ではありません。さらに勉強する気持ちを持っていくことが本当にすばらしい人間になれることだと思います。

「君子は器ならず」

杉村友章

現代でいうと、ひき出しの多い人のことをいうのではないかと自分なりに思いました。それに人は知識がないと多くのことがうまくこなせないと思います。一つの知識を得ることで、二つ三つのことが分かってくると思うのです。新しい物を造るには一つの知識から次につなげることが大事です。だから人は成長するたびに知識を身に付けていかなくてはならないと思います。



「故きを温ねて新しきを知る」

佐藤 誠

（ふるいことを学ぶことによって今のことをより深く知ることができる）

僕はダンスが趣味で、独学でいろいろとダンスの事について勉強していると、さらに多くのことを知りたくなってきました。それで新しい事ばかりではなく、古い歴史や文化などを知っていくうちに楽しくなり、はば広く考えられるようになりました。だから、古い事や、物事の発端を知る事はとても大切なことだと思います。

「故きを温ねて新しきを知る」

森 敬秀

よく親戚のおじいさんとかおばあさんに会うと、昔の事を話してくれるが、聞いていると「これは知らなかった」「とてもタメになるな」という話がいくつもある。なので、昔の人の考えから、

今の事を考えなおすのも良いことだと思った。

「故きを温ねて新しきを知る」

池田 奈央

最新型の機械（発明）は、昔の知恵や暮らしの中に発明のヒントがあると聞いたことがあった。新しい発明（発見）の中には、昔の知恵が土台となっていることが分かった。必ずしも最新型が良いわけではないと思った。

「秀でて実らざる者あり」

清水 希企

（才能があっても実らない人がいる。人は努力が必要だ。）
私がこれを選んだ理由はこの意味にすごく共感できたからです。人間は才能があっても必ず実るとは限りません。成功する人間は稀ですが、成功する人間は必ず努力している人であり、逃げない人間です。私自身もそういう人間になろうと思っています。

「秀でて実らざる者あり」

橋本 さおり

運動一つを取っても、いくら体力や技術に才能があろうと、日々の努力しないものに良い結果はないんだと部活動をやって学んだ。努力した者だけがむくわれる。

「行くに徑に由らず」

白石 亮

（目的を達成するのに決して近道はしません。）
自分は野球をやっていて、目的を達成するのに近道なんてないし、逆に近道をする問題などが発生してきたりと思う。目的を達成するには長く険しい道を進んで行くしかないし、近道をせずに目的を達成することに意味があると思うからこの句を選んだ。

「之に居りて倦むことなく、之を行
うに忠を以ってす」

松 本 有加里

（仕事に向う時は手をぬかずに真心をもってしなさい。）

世の中には自分の就きたい職に就けず、やりたくない仕事に仕方なく就いている人が大半ではないかと思っています。でもどんな仕事でも、一生懸命取り組み組めば周りの人もついてきてくれるし、自分の頑張りを認めてくれると思います。私は高校生の時に、某スーパーのレジのアルバイトをしていたのですが、入ったばかりの頃は、間違っただけで、必ず客からクレームが来ていました。しかし、そんな事にもめげず、仕事に一生懸命取り組んだ結果、客からクレームも来なくなりましたし、従業員の人たちからも認めてもらえるようになりました。



「遠き慮り無ければ必ず近き憂有り」

吉 田 友 香

（先のことをよく考えなければ、すぐ身近に憂いが生ずるものだ。）
前からずっと計画を立ててから行動するというのが苦手で、夏休みの宿題などは後であせってしまうことがあったので、保育者になってからも後であせらないように、しっかり先のことまで考えたいと思います。

「学びて時に之を習う亦説ばしから
ずや」

館 花 早 希

（学んで練習するとすっかり自分のものになってくるので、とてもうれしい。）

私はこの章句を見て高校から続けている部活のことを思い出しました。毎日毎日弓道場に行って稽古をして、顧問から注意された事を必死に練習しているうちに、その技術がいつの間にか身に

ついで、すぐうれしかったです。練習をしないと技術を自分のものにするにはできないけれど、練習をすれば何か身につくものがあるんだと思います。

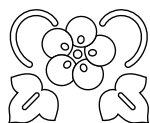
「人の己を知らざるを思えず其の不能なるを患うるなり」

日 下 幸里香

（自分が人に認められないことを嘆くより、自分が認められるだけの能力がないことを嘆きなさい。）

私は、高校時代弓道部に所属していたのですが、練習時代や大会等で良い結果がなかなか出せなくて、良い結果を出していた男子ばかりが周りの人に認められているように見えました。

短大に入って、儒学を学んでいたら、自分の経験と同じようなこの言葉があったので、これからも、人に認めてもらえないことを嘆くよりも、自分の能力を考えて何事にも取り組みたいと思います。



「怒りを遷さず」

宮 村 駿 一

（怒りを他に向けない。）

人の中には怒りを他人や物にぶつける人がいると思います。私も昔は、親に怒られたり、嫌なことがあって不機嫌になったのは、その怒りを他人や物に当たるということがありました。怒りをぶつけられた方も嫌な気持ちになり、今思うと最低だったと思います。怒りを他人にぶつけるのではなく、何か他に怒りを無くす方法はいくらでもあったと思います。

「賢を見ては斉しからんことを思う」

石 川 瞳

（かしこい人、すばらしい人を見ると、自分もああいうふうになりたいと思う。）

おばあさんが踏み切りを渡ろうとしている時、踏み切りが下がって、おばあさんが走ったら、つまづいて転んでしまいました。私

は、反対側の踏み切りにいて大丈夫かと心配していたら、近くにいた女の人が、おばあさんにかけてよって、声をかけていました。おばあさんは頭から少し出血していて、女の人は、自分の車に乗せて、病院まで連れて行きました。その光景を見て、女の人のように人を助けられる人になりたいと思いました。私は、車に乗っているのですが、運転マナーが悪い人を見ると本当にがっかりします。その時に、よくあの女の人のことを思い出します。あの女の人のように、人の事を考えられる優しい人になりたいと思いました。

「利に放りて行えば怨多し」

鈴木 悠 司

（自分の利益になることばかり考えて行えば怨みをかうことが多いくなる。）

この言葉は今の政治を表していると思う。政治家が自分の利益のためにワイロをもらい、そのお返しにワイロをもらった会社に仕事を任せる。このような事があり、知事が捕まったりした。これによって県民から元知事はうらまれ、ワイロを渡していた会社

もうらまれる結果になった。目先の利よりも、後々仕事がなくなるほうがこわいと思わなかったのだろうか。

「弋して宿を射ず」

孫

瑜



（巢ごもりしている鳥はとらない。）

人間はやさしい心が大切であると孔子は二五〇〇年近く前に教えてくれた。今地球温暖化が進んでいる。温暖化によって北極や南極の氷もとけ続けている。しかしながら、人類はまだお金や経済発展という名で工場をつくり、汚れた排気や排水を出しつづけている。これは高度に発達している人類文明がやるべきことではないと思う。人類はきちんと思想をもって、思いやりをもって、鳥のことや魚のことなど考えてから自分の行動をするべきだと思う。つまりやさしい心が大切だ。もしある日、突然鳥の鳴き声がかくせず、鳥が一羽もいないと気づいたとしたらどうだろう。今からでも遅くない。皆で手をつないで環境を守ろう。いくら「経

「宿」という「弋」が鋭くても、すべての動物の「環境」という「宿」を射ないように。

「子曰わく、吾十有五にして學に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順い、七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず」

謝 媛

（私は、十五才で真剣に学問にとりくもうと志し、三十才で自立し、四十才の時にはいろいろなことに惑わされることがなくなり、五十才の時には自分のなすべきことを知ることができ、六十才では人のことをすなおに聞けるようになった。そして七十才になった時には心のおもむくままに行動をしても社会のルールや人の道にはずれることはなくなった。）

以上の言葉は大好きな『論語』の中にある一言です。簡単な文章で人間の今生を深く述べてくれました。人の生活、人の性格、人の人生観は、時間の推移と年齢が上がるにつれて人生の意味も

変ります。孔子は、こんなに短い文章で、人の今生を説明できるから大好きです。

「君子は食を終るの間も仁に違ふこと無し」

鈴木幸恵

（君子はご飯を食べるわずかの間でも仁（感謝・礼儀）に反することはしない。）

私は現在弓道部に所属しています。一日の大半が授業と弓道の練習にしまわれるので、家に帰るととてもおなかがすきます。私は地元なので、家には家族がいて、そして母がいます。母はいつも朝・昼・晩とご飯を用意してくれます。大学生になって、まわりは一人暮らしで自炊している人がほとんどです。私はその中で、家族の支えがあり、大学生活をすごしています。食べるとは人を良くすると書きます。生きていく中で食べるということは一番大切なことだと思います。まい日を食べていけるのは家族のおかげです。

この『論語』のことを見て、私ももっと家族に感謝しながら

生活していかなければならないとあらためて思いました。

「未だ生を知らず焉んぞ死を知らん」

白 ■ 真里

（生きることはむずかしい。まだ生きることがわからないので、死の意味などとてもわからない。）

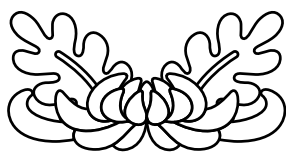
私は、まだ生まれてから十八年しか経っておりません。しかし、今まで生きてきた中で、自分ではどうしようもない壁にぶつかつた事は何度もありました。「人は何事においても平等なものではない」、「死」だけは万人に平等におとずれるものだと知りました。なぜ、「死」だけが平等に与えられたものなのか、死というものがなぜ存在するのか、なぜ命は繋がりが繰り返されるのか。まだ生きる事の意味が見出せない。私には死の意味など、とてもわかりません。ですが、その死の先には何があろうとも、万人、全ての生まれたものの宿命ならば、私は生きてる今に意味を見出す事が出来るようになる気がします。

「徳は孤ならず必ず隣有り」

和田 吉 尋

（徳する人は決して孤立しない。必ず理解者や仲間が現れるものである。）

現在私はミャンマーのサイクロンと中国の地震の募金活動を行っています。募金活動を行っているのは留学生や学友会、自治学のメンバーがメインですが、募金をしてくれる人がいると、この「徳は孤ならず必ず隣有り」の『論語』の章句が出てきます。やはり善な行いをする、多くの協力者がでてくるものだと思います。『論語』は国境を越えて、存在するものだと思います。



「その身を正しくすること能わずんば人を正しくすること如何せん」

呉 本 浩 章

（自分の行いを正しくできなければ、人を正そうとしてもしようがない。）

自分は中学、高校、そして大学でも部活動として柔道をしているが、母校の後輩や来年から入る後輩に、自分が正しい行いをしている姿を見せなければ、いくら口で注意しても良くならないと思う。その言葉を忘れずに日々の生活を見直したい。

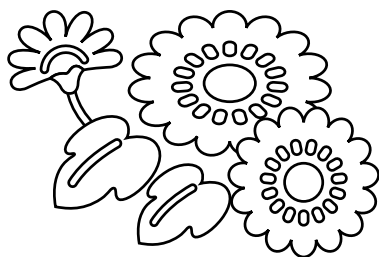
「天何をか言わんや四時行われ百物生ず」

武 者 美智子

（天は何も言わないけれども、春夏秋冬は自然とめぐっており、天の摂理の下すべての物が生まれている。）

私がこの句を選んだ理由は、自然ってすごいものだなと感じた

からです。「天」は何も言わないけど、私たちの生活は、こんなふうにまぐめぐっていて、まるで「天」が何かを言ってるように感じます。春夏秋冬の四季や、毎日の変化など、同じになったことがなく、「自然的」ってすごいなあと思います。



論語素読教室

一般受講生

「心に響く言葉を子や孫に」

小松 政 男

「文字と言葉は生きている」私はお陰さまで八十路、大正生まれ、戦前、戦中、戦後と、貧困・豊富・戦争・平和・不自由・自由を経験し思うに、座右に『修報』『論語』を学ぶ機会をいただき、創刊号から「人生の道しるべ」として、子孫たちが帰郷する度に、会話の糧（かて）に、特に平成になって二十年の節目でもあり、孔子と現代社会に焦点を合わせ、「修報」の起源を辿り再読すると、田久理事長諸先生方々の並々ならぬご努力に感動感謝の念胸一杯です。

『仮名論語』は勿論先人の残されている一言一句、毎年盛大に挙行される孔子祭記念日は、原点に帰る日とされ、建学の柱とされる平和経済学基本要項十七ヶ条を念頭に、私たち論語素読教室と市、生涯教育グループ「麦の芽会」で「古典シリーズ論語を読む」講座も第六回を予定し、修報の意に沿う皆さんと共に努力を誓い、次に私の子孫に残す自論を列記すると、

・持つべきは「わが家のルール」を、家の中から頑固親父がいなくなつた。なんでも「いいよ、いいよ」で、日本中に甘え人間が跋扈（ばっこ）している。もう一度基本からやりなおさなければ、この国（わが国）は本当に危ないと思う。

・父（明治二十八年・亡）は家庭における基本的な「しつけ（躾）」が厳しかった。感謝の言葉の「ありがとう」、間違つたことをした時の「ごめんなさい」、友達同志の言葉遣い、目上に対する敬語など…。食事のマナーでは、箸の持ち方、集中してこぼさず食べるように言われた。それも■ガミガミ■と言うのではなく、父の経験と（旧軍近衛兵）世間話を入れて、けじめのある生活を身につけるように繰返し繰返し教えられ乍ら（共育）社会人になつた。社会に出るからは、四季折々に、社会人としての心構え、注意されたら何故反省、感謝忍耐、努力するように、と億劫（おくう）がらず（字が上手だった）手紙を届け注意励ましてくれた。

亡父を今でもいつも誇りに思っております。

昭和始めの親父の小言を平成時代の小言に。

- 一、挨拶は先に（洗面と挨拶はその日のスタート）
- 一、玄関はその家の顔（清掃と履物を揃える）
- 一、掃を持て（家庭も会社も）
- 一、口を出すより手を出せ（先ず実行）
- 一、人は信用（信頼・出合を大切に）
- 一、敬う心を持て（敬心・敬師・敬愛）
- 一、自分がされて■イヤ■な事はするな。
- 一、二宮尊徳の報徳訓を再考。

「孔子と孝道」

三本松

武

孝道の意義を知るため、古代中国の文献を紐解くことにした。

孝道についての記録は、孔子が門人の會子の為に、孝道を説いた孝經の著作なのである。『論語』は孔子が門人との問答式で道徳を説いたものだが、孝經は孝を主文にした人道を、万世不易の大

綱として説いたものである。

ところで、孝道についての一部分を、孝經から列举してみたい。

- 一、孔子が多く門人の中で、會子を選んだのは何故か。それは會子が最も親孝行であったからだと言う。是を會子の門人が孝經として伝えたと言う。
- 一、後世幾多の変遷の後、唐の玄宗皇帝が領民に対し家毎孝經を修得させたと言う。
- 一、日本では孝經の伝来は、聖德太子の頃既に渡来していて、孝謙天皇の時代には、領民に家蔵させていた。是が我国教育の淵源となるのである。

聴て宮中における皇太子の読書始めとして鎌倉・江戸時代にかけて民間に至るまで、学問の初めは孝經から習い始めたと言う。

一、後年孝經は戦前まで、学校における教育勅語の主要文となっていた。現在教育勅語に代る指針がないけれども、学校・家庭において、この伝統ある孝經を、熟読修得させたいものである。

次に孝經の中で特筆すべきものを挙げてみたいと思う。

一、「身体髪膚 之を父母に受く、敢えて毀傷せざるは、孝の始めなり。」この句は古来から有名で、會子を実際実行した人と伝えられている。

一、「天位の性 人を貴しと為す、人の行は孝より大なるは莫し」

意味としては、天地間の生物の中で、人間以上に貴い者は無い。人間の百行百徳の本は孝であって、これ以上に大切な者は無いとのことだが、この句は日常反復熟読することが、学校の孝道教育として最も必要であると言う。

古代中国の聖人は、人の人たる故因は教育であるが、ここで云う教育とは人倫の教育であって、人倫とは親子・君臣の関係・博愛精神等の道徳教育である。

特に孝経は孝道を以て天下を治め、孝道を実践躬行すれば、天下国家は平穩に理想郷が実現すると説いて、孝は百行の本で、全ての善行美徳の根底に在るから、世の悪事、罪科の根源は皆不幸から始まり、親に対する不孝ほど大罪はないと説いている。

最近における親子殺傷事件・無差別通り魔事件の多発・甚だ慚愧に絶えないが、この要因予防対策について、未だに有識者の討論を聞いたことがないが、市井における個人間の凶悪事件に無干渉では、自分の警護は自分で守る護身用具が必要な時代が聴てやってくる。

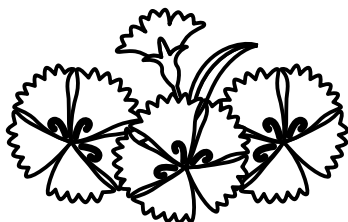
学校教育は知徳体が三本柱だが、徳を疎かにした教育が、日本社会の腐敗の原因になっている。

さて本年度も道徳教育について、政府の諮問機関である教育審議会と教育再生懇親会が持論を展開した。懇談会は小学校の道徳

教育を、教化化の方針を主張したが、片方の審議会はこれに異論を唱え、今年度も小学校の授業課目の評価は見送られてしまった。然し、教育現場では小学校初等科から人命の尊重・先祖崇拝の孝道教育が、日本再生の最大目標である。

最近頃に人情風俗が乱れているが、物質万能主義を排するには、東洋の精神文化を尊重し、孝道教育の振興を図らねばならない。日本の道徳の退廃は、戦後某国の、日本弱体化を狙った産物である。戦後教育の欠陥が日常の家庭生活の身近な暮しの中に忍びよってきた。

日本伝統の道徳教育の普及発展を期待するには、全ては教育基本法の改正にある。



修 報 第十三号

平成二十年六月

学校法人 昌平 黉

儒学文化研究所

住所 いわき市平鎌田字寿金沢三七
電話・FAX (〇二四六) 二一―一六六二